



認定NPO法人育て上げネット

(全ての都民の就労を応援する) 就労支援のあり方を考える
有識者会議

ひきこもっておられる方への就労支援
～現状と課題～

必要なものは「時間と信頼」

Hさんのこれまで

今回登場していただくのは、Hさん（男性、1970年、関東生まれ）です。

Hさんは、中学3年生のときに、わずか3カ月の間に、ご両親を亡くされました。その後、九州にある児童養護施設に入り、高校を卒業。関東にある自動車工場の寮に入り、正社員として、工場内機械のメンテナンスを担当していました。12年もの間働いていたのですが、体をこわし、精神的疾患を患ってしまい、会社を休みがちに。会社は、その勤務状況を問題視して、Hさんを解雇してしまいました。

会社を辞めたHさんは、退職金こそ持っていたものの、寮を出されてしまいます。退職金を食いつぶしながら、カプセルホテルに泊まっていたHさんでしたが、住民票を持たず、保険証を手に入れられないため、精神科に通うにもたいへんなお金がかかります。やがて、お金も尽き、路上生活を余儀なくされてしまいます。「こうやって死んでいくんだ」と覚悟を決めたとき、市役所職員によって助けられ、生活保護を受給できることになりました。しかし、体の調子が戻り、働き始めてからも、会社都合で解雇になることが続きます。めげ

ずに就職活動をしていたHさんの前に立ちふさがったのは、「保証人がいない」ということでした。40社以上から不採用になったのです。自暴自棄になったHさんは、生活保護をもらいながら、ひきこもり状態になってしまいました。

8年ものひきこもり状態に突破口をあけたのは、たちかわサポート（P16参照）のスタッフによる訪問でした。スタッフの言葉にほだされたHさんは、サポートに通うようになり、「育て上げ」ネットの「ジョブトレ（P46参照）」を経て、現在は就労されています。

Hさんは、「少しでも困っている方々のお役に立つことができるなら」と、このセミナーへの出演を快諾してくれました。



この冊子は下記セミナーの模様を記録したものです。
NPO 法人「育て上げ」ネット
シリーズ若者 当事者の声 Vol.3「失業、30代後半」からの就労
2011年5月28日（土）14:30～17:00
東京・立川●育て上げネット2F 研修室

当事者●Hさん

インタビュアー●井村良英（いむら・よしひで）
NPO 法人「育て上げ」ネット
若年支援事業部地域担当部長
たちかわ若者サポートステーション所長
キャリア・コンサルタント



Hさんが、たちかわサボスズに行こうと思ったのは、なぜでしょうか？

Hさん それは、井村さんがしつこかったからです。

あのときの私は、井村さんに悪言を吐いていました。井村さんから「絶対に、サボスズに来てくれよ」と言われて、「はい、行きます」と返事はするものの、まったく行く気はありませんでした。口ではそう言っても、それは本心からではなくて、頭のなかではまったく行くつもりがない。後付で、自分で自分に言い訳をして、約束を破るわけです。今思えば、すごく失礼なことをしていたと思います。

井村 「」しいいな」と思われているのでは、僕も少しは気づいていました。

ひきこもり状態にある人が外部の人と接するとき、なかなか約束を実行しづらいうですらね？ Hさんは、その理由をなんだと思いますか？

Hさん そうですね。ひきこもっているときは、好き勝手な生活をしているからではないでしょうか？

私自身も、毎月、生活保護のお金をもらっているながら、パートと遊びに行っていました。

ていました。お金を使わずに生きて、生活費が足りなくなったりして、食料を抜いて切り詰めればいろいろ甘い考えはたなっていました。「自分さえよければどうでもいい」と思っていますので、約束を破ってしまうのかもしれないですね。

井村 ひきこもり状態にあると、自己中心的な行動を取ってしまう人は、けっこう多いですね。でも、そうした行動もやむを得ないんじゃないかと思えます。

彼ら・彼女らは、一人で生活しなければならぬ状況に追い込まれているんですね。家族と暮らしている家で閉じこもっていても、生活保護を受けながらアパート暮らしをしていても、その状況は同じなんです。すると、自分のリズムで動くことが習慣になってしまっていて、他者をおもんばかって動く環境にないわけです。こうした状況が長く続くと、久しふりに他者と会うということになっても、ついつい自己中心的なふるまいをしてしまう。

ひきこもり状態にない人々は、たいてい他者をおもんばかりながら生活しているわけですから、そこに自己中心的な人間が入っていくと、排除されてしまいます。「いんなに自己中心的な人とは一緒にいたくない」と、誰しもが考えってしまうのです。

「どういふことから、長くひきこもり状態にあった人は、どこへ行ってどうまっかいかないという状況に追い込まれてしまいます。そしてまた、ひきこもりになってしまふ……」とした悪循環があるのです。

Hさん 私は、井村さんに対して、そうとうひどいことをしたと、今では反省しています。何でも何でも訪問していたなんてのは、記憶に残っています。

とんぼひといことをされて、井村さんほげっして怒ったりしなかった。とにかく「じじい」もあつた田中てはじじい」といふ二巻で、私を訪問してくれていた。その気持ち、私に最初の二巻を贈り出すせやくれたんだと聞いて喜ぶ。

井村 僕の話を、「少し聞いてもいいかな」と思えた瞬間のことを覚えていますか？

Hさん うーん。すごくいいなとしか思ってませんでした(笑)。すみません。

井村 さぞですかー！(笑) 僕はあまりめが張るんです。すみませんでした(笑)。

僕は、「あ、Hさんが僕の唇に耳を傾けてくれたはじめた」と思えた瞬間のことをよく覚えていっています。Hさんの唇から積極的に話してくれただことがあるんです。

Hさん(笑) 電車、お好きですかね(笑)？

Hさん はい(笑)。

自動車上揺る動いてたことと、少ない休みをありへりして、僕が電車好きでじじい

ていました。仕事のストレス絶版の意味もありましたが、私の趣味ですね(笑)。

井村 Hさんのお宅に行ったとき、彼は「スーパーレールカーゴ」という、佐川急便専門の荷物列車の写真を持っていたんです。

Hさん (笑) じじいも電車好きです(笑)がいます。あれは電車です。

井村 あっ、すみません(笑)。

実は、僕が電車マニアなのではなく、ウチの息子が電車好きなんです。それで、よく電車カルタなどの遊びにつきあわされるんですが、「スーパーレールカーゴ」はすごくマイナーな電車なんです。その電車の写真を彼は持っていた。この話をしたことが、僕とHさんとの関係を深めていくきっかけになったんだと聞つのです。

僕とHさんは、家庭ではありませんし、生活保護の担当で受給者という関係でもありません。Hさんにとつて、僕はあつたなへ利益関係のない第三者なんです。だから、僕が訪問したとき、Hさんが抗議したり、悪言を吐いたりしても、そのことで彼がピンチに陥る危険性はまったくない。逆に、Hさんが「迷惑だ」「じじい」と抗議するのもし全然なんです。こうした対等な関係性のなかで、僕は、Hさんと僕とHさん関係を築ける「何か」を必死で探していました。

Hさん 最初はただお世話だとなっていてたまたまのことで、今となってはじめても懐かしい思い出です。そこで運動気を取り直して、芝刈からスタートとして、その間に一歩踏み出せたいじゃないかというのが、著書な感想です。

仕事が見つからなくてひきこもっていたたとき、私は、「生活相談を受け付けて、毎日お金をもらえなくなったから、じっとしていてもいいや」という考えに走ってしまって、結局辞めざるを得なかったと思っていました。「ジョブトレ」がなかったら、一人で立ち上がれなかったと思います。

井村 なるほど。

最初に「ジョブトレ」に来はじめたころは、どうでしたか？ すべてなじむことができましたか？

Hさん 最初に参加したときは、緊張しっぱなしでした。

でも、このまま緊張するばかりで、何もできない、何もできないままだったら、なんのためにここに来ているのかと奮然として、自分から積極的に話しかけるようになった。ほかの参加者に話しかけて、仲間作りをはじめたんです。

そうするうちに仲間ができました。本当に、これが一番うれしかったんです。そして、新しく入った仲間に対して、いろいろと教えることができるようになった。

も大きいです。そして、「ジョブトレ」参加者だけではなく、いろいろな人と接することができたのも、大事な体験だったと思います。

井村 「ジョブトレ」のプログラムを通して、地域の方と出会ったりもしますからね。

自分が変化したなと思うことはありましたか？

Hさん 働いていたときの昔の自分がよみがえった感じがありましたね。あんなときの感覚を取り戻せたような気がしました。

働いていた当時は、機械業入ったので、機械のことしか知らなかったけれど、広い視野で、いろいろなことをやってみたいと思えるようになっていきました。

井村 Hさんは、結局九ヶ月で「ジョブトレ」を卒業したんですが、これはかなり短期間で卒業というところになります。おたいい、「ジョブトレ」の平均在籍期間は「一〜二年半」です。このへんぐらいで卒業する方がほとんどです。

たいていの支援者は、時間短縮を求めて、Hさんには半年間のプランクがあったので、それと同等のペースで九ヶ月の年俵がかかるのではないかと予想します。それを「一〜二年半」で社会的自立に導いていくというのが、「ジョブトレ」の強みなのですが、Hさんはそれをほめるかに留めて、九ヶ月で卒業してしまっただけは、「ジョブトレ」の

ですーなる、さあさあな役割があり、それぞれを担って作業していきます。二日三日毎週三百五十人への役割を担っていますので、すごく忙しい職場です。

井村 すきいですよわね。

僕は、Hさんが卒業したあと、大変な仕事をしているというのを聞いていましたし、けっこう会ってみたいです。

というのも、「ジョブトレ」には、卒業した人たちが集まる「ウィークタイムスプログラム」というものがあるからです。「ウィークタイムス」というのは「ゆるやかなつながり」という意味で、卒業しても週に一回はここに来てもいいし、「ジョブトレ」のイベントにも参加することもできるというものです。

働きはじめるのは、実はそんなに大変ではないけれど、働き続けることは本当で難しいですね。家庭での安心感、職場での良好な人間関係があっても、それだけでは足りない。もう一つ、頑張りができる場所があればいい……。それはインターネットでも、趣味のサークルでもかまいませんが、Hさんにとって、モチベーションの知れた仲間がいるし、相談できるスタッフもいます。ですから、働きはじめたあとも定期的にここに来るのを見てほしい、既井が継続する一助になっていると思っています。

Hさん どうですか？

Hさん キョウコですね。「ジョブトレ」を卒業したあと、働きはじめたらもちろん、ちゃんと誰か聞いてもらいたいな、相談したいなという気持ちがあります。私の場合は家庭がいまないので、相談できる相手がどこかなかったというところもありです。

井村 さあ、キョウコをまわめていきますよと思います。

今、「ジョブトレ」に来ている利用者の方たちに、Hさんからアドバイスするとなら、どんな言葉をかけますか？

Hさん 自分で頑張る気持ちも大事ですね。いい点はたくさんあります。

井村 でも、自分に自信が持てないのも構ってほしいですね。でも、やっとなら自信を持ってもらうことになるんじゃないかな。

Hさん 「ジョブトレ」ではいくつ失敗してもいいんですよ。無理でも失敗できる。失敗して立ち上がり、また失敗して……。の繰り返しでいいんじゃないですか。すぐ立ち上がれなくても、ゆっくの時間をかけて、努力していけば必ず出来る。私はそう信じています。

(参考)

『ケアとしての就労支援』

(日本評論社) 2018年 監修：斎藤環・松本俊彦・井原裕

『社会的ひきこもり 終わらない思春期』

(PHP新書) 1998年 著者：斎藤環

**「就労せよ」という説教や説得が
当事者を疲弊させ力を奪う、**

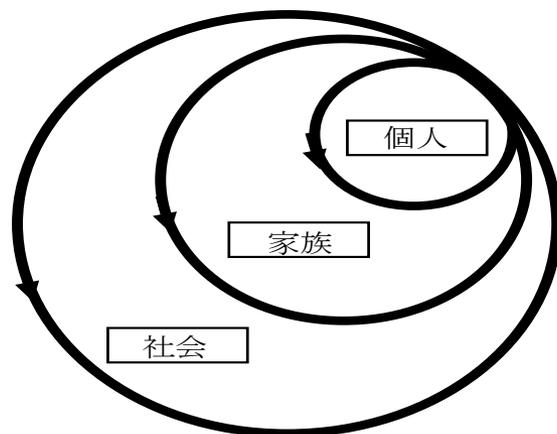
**という彼の指摘は、就労支援に
関わるすべての人が銘記しておく
べき事実でしょう。**

『ケアとしての就労支援』（日本評論社）2018年

P6 斎藤環氏 筑波大学医学医療系社会精神保健学

『社会的ひきこもり終わらない思春期』PHP新書、1998年、斎藤環氏

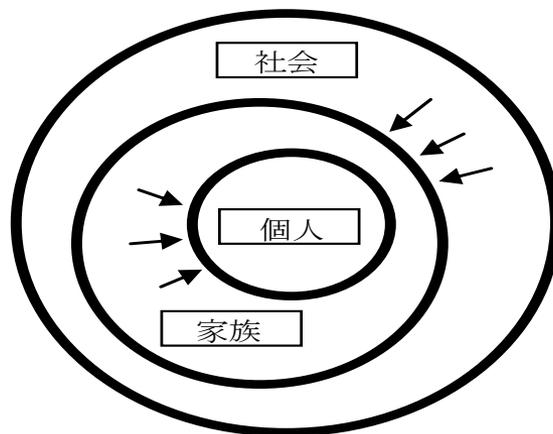
ひきこもりシステム模式図



通常システム

3つのシステムは相互に接しており、互いに影響を及ぼしあって作動を続けている。

「接点」とはコミュニケーションのことである。



ひきこもりシステム

3つのシステムは接点を失ってばらばらに乖離し、相互の働きかけはストレスに変換されて、いっそう乖離を促す。

**私がひきこもりの苦しさから解放されて
いったのは、ひきこもり当事者が集う居場
所などに参加してからです。人間関係を
失って生まれた苦しみは、人間関係を取り
戻さない限りなくならないのだと思います。**

**しかし、居場所に参加しても、就労の悩み
から生じる自責の念からは抜けられません。
就労は、人間関係を作ると同時に自責の念
からも当事者を開放するため、大きな効果
が期待できます。**

『ケアとしての就労支援』（日本評論社）

P75 木村ナオヒロ氏 全国ひきこもり当事者連合会

若者が社会とつながろうとするとき、最大の障壁にも最高の理解者にもなりうる存在である「親」

『ケアとしての就労支援』（日本評論社）

P30 工藤啓 NPO法人育て上げネット 理事長

(参考)

『若年無業者白書』

(NPO法人育て上げネット) 2015年

**『ひきこもり、矯正施設退所者等みずから支援に繋がりにくい
当事者の効果的な発見・誘導に関する調査研究』**

(NPO法人育て上げネット) 2013年

無業になると「どうしたらいいのかわからない」

- 6か月以内でも74.4%
- 3年を超えると90%を超える

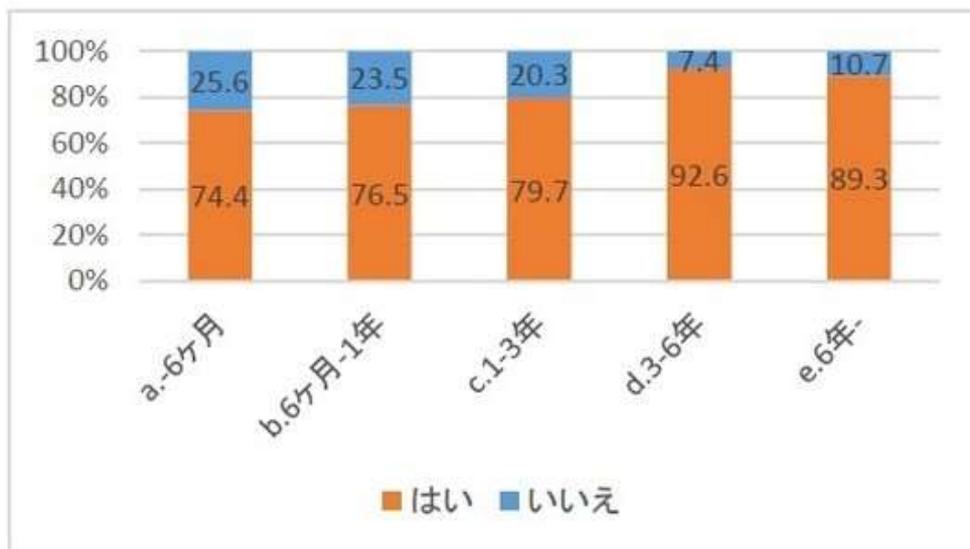
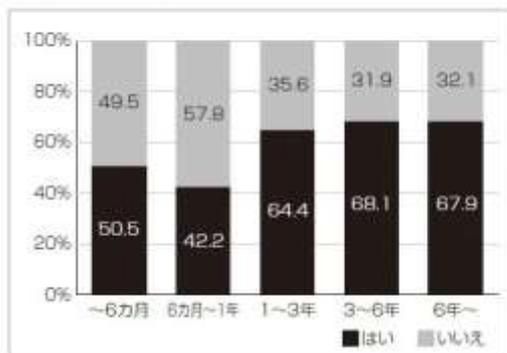


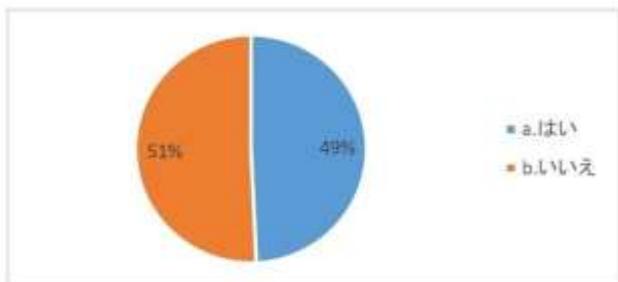
図 1-7-9 人が怖い



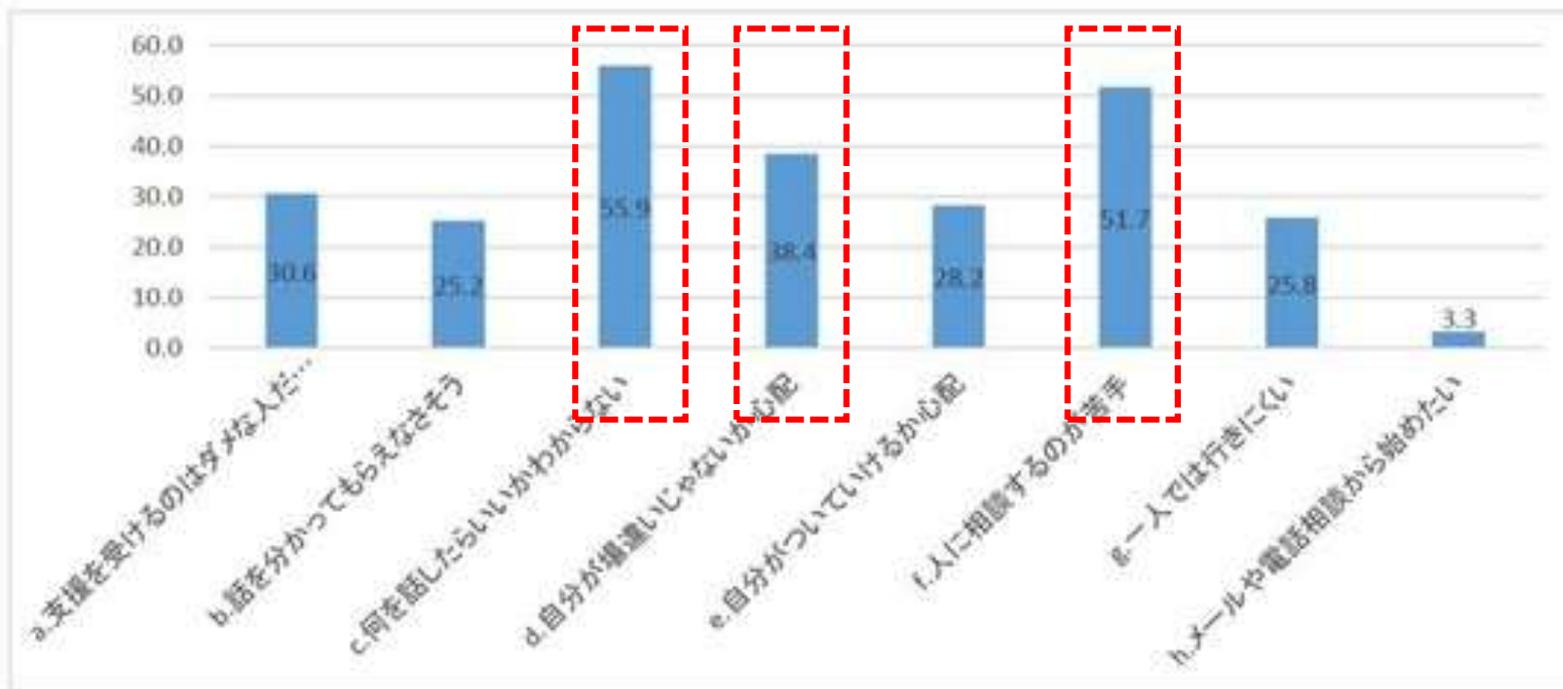
無業期間が1年を超える場合
若年無業者の4人に3人が
「他者が怖い」

出典：若年無業者白書

若年無業者の半数は支援機関の利用に躊躇



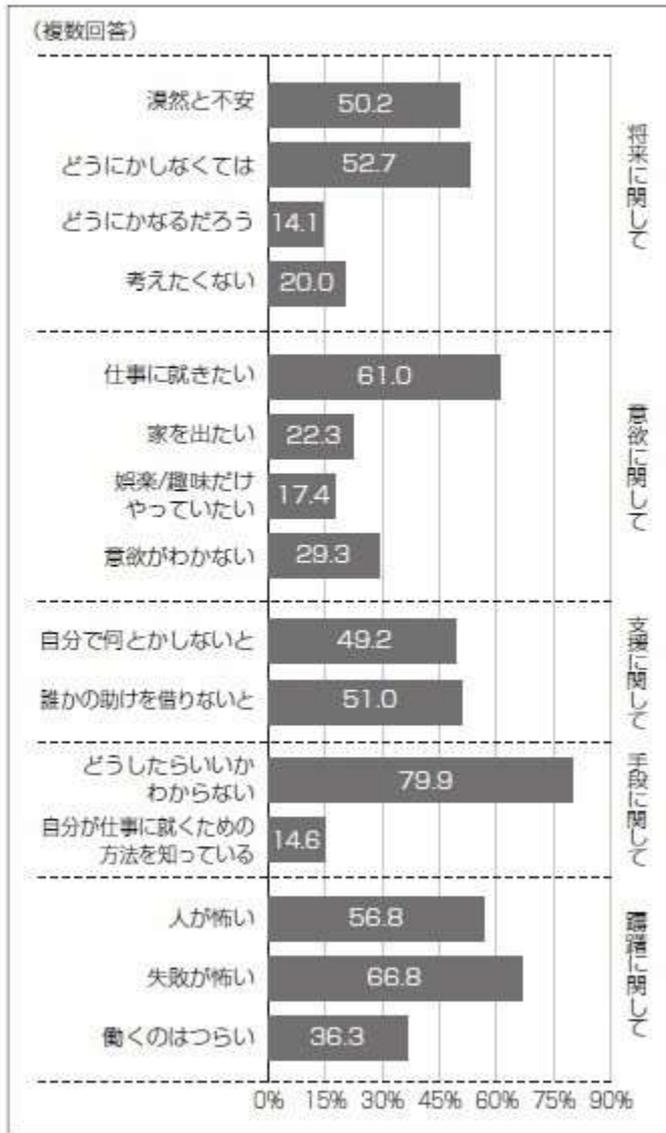
- 何を話したらいいかわからない
- 相談が苦手
- 場違いじゃないか心配



出典：若年無業者白書

図 1-5-3

学校・仕事から離れている間
どんなことを考えていたか



出典: ひきこもり、矯正施設退所者等みずから支援に繋がりにくい当事者の効果的な発見・誘導に関する調査研究

第4章 無業状態の若者の支援機関への求所目的

図 4-01-1 求職型の求所目的

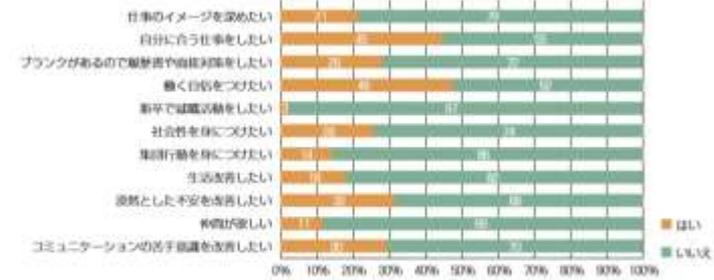


図 4-01-2 非求職型の求所目的

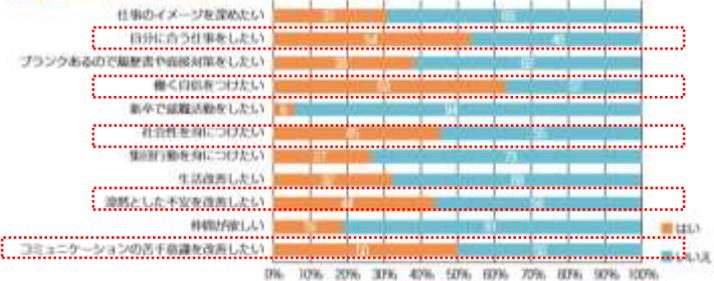
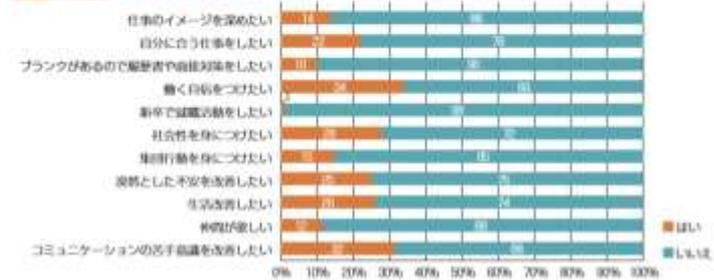
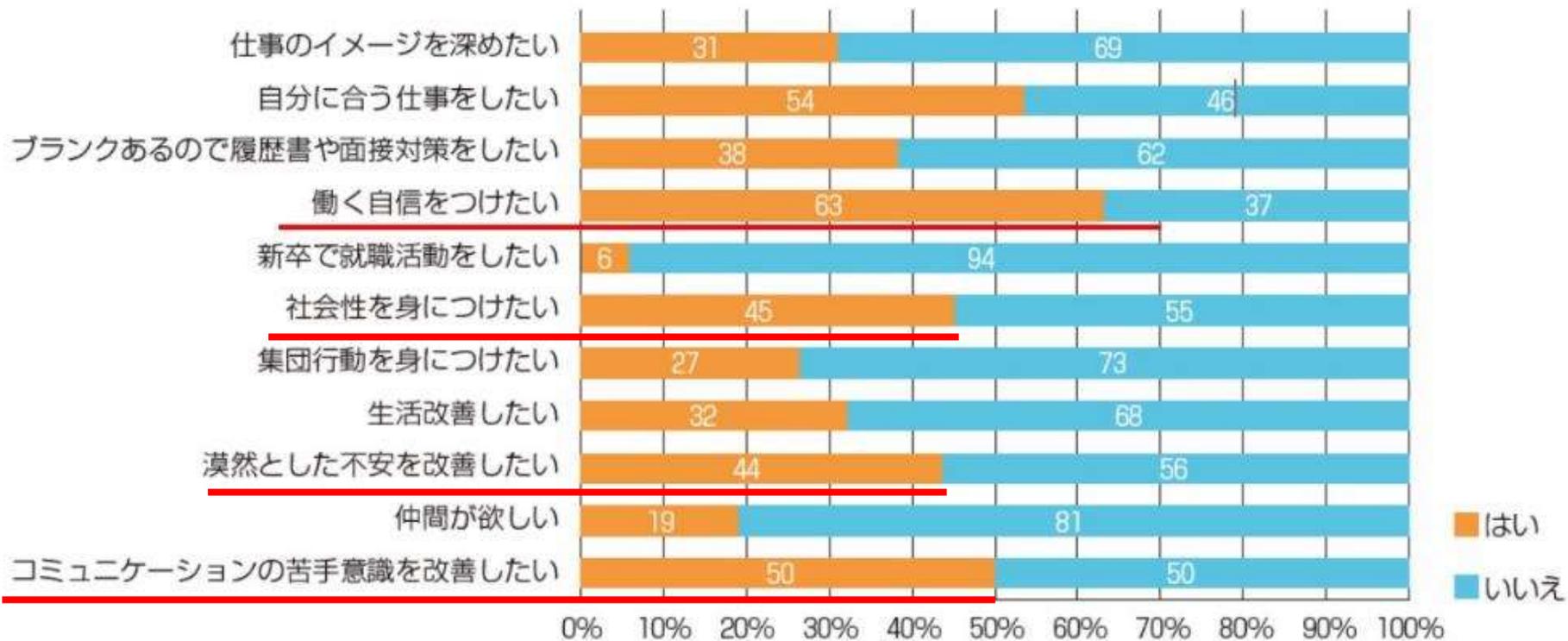


図 4-01-3 非希望型の求所目的



出典: 若年無業者白書

非求職型の来所目的



就職支援では満たせないニーズ

(参考)
育て上げネットについて

育て上げネットが目指すもの

Vision

あるべき社会像

すべての若者が社会的所属を獲得し
「働く」と「働き続ける」を実現できる社会

※社会的所属とは：「安心」を実感し、「挑戦」できる関係性を有する場

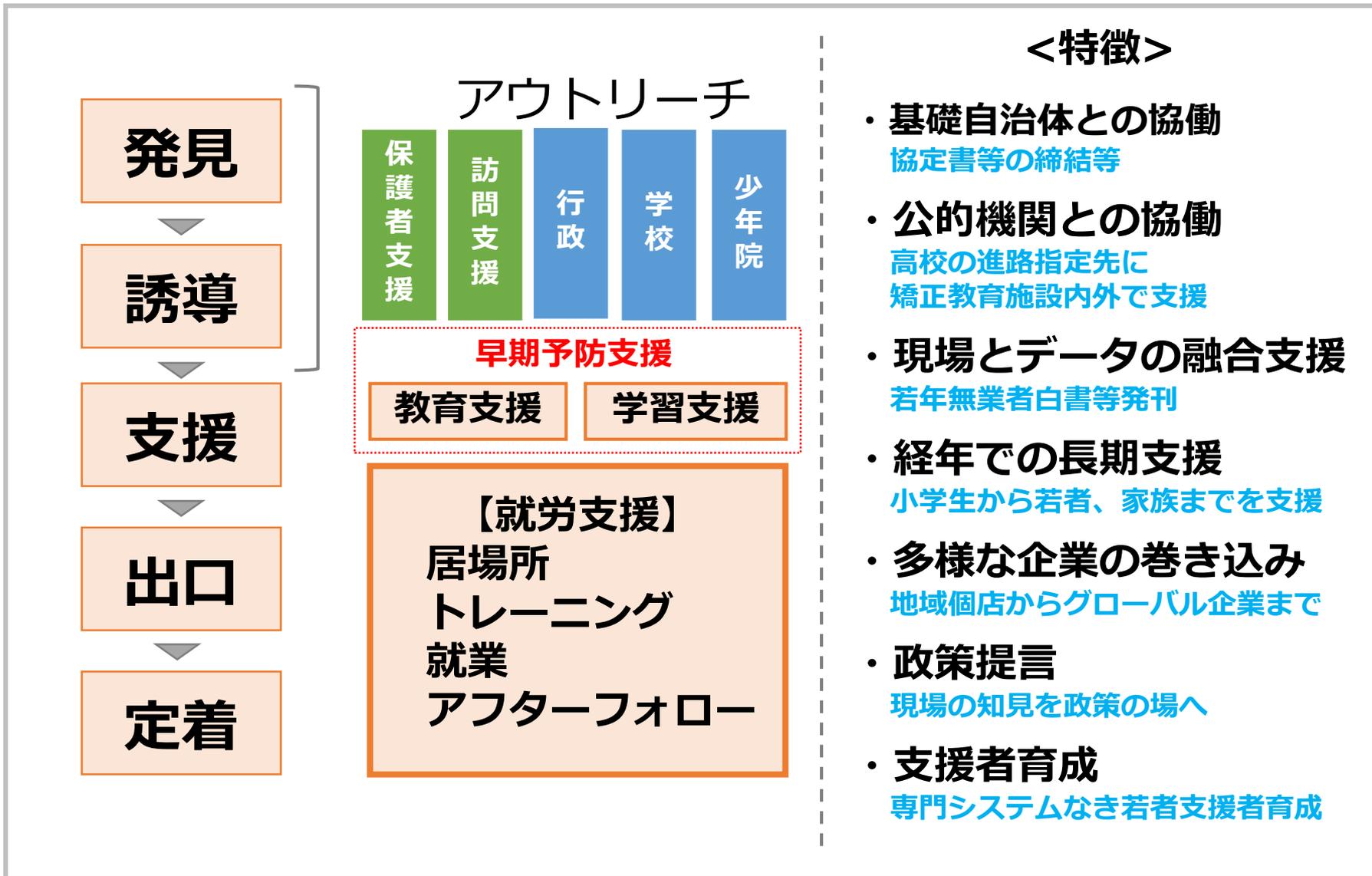
Mission

果たすべき使命

若者と社会をつなぐ



Vision :すべての若者が社会的所属を獲得し、「働く」と「働き続ける」を実現できる社会
Mission: 若者と社会をつなぐ



事業領域：若者支援事業



事業領域：教育支援事業



事業領域：学習支援事業

まなびタスは、「学び」に4つのCをプラスした
子どもたちのための場所です。



Confidence 子どもたちに自信と肯定感を！

Challenge 子どもたちにたくさんの挑戦を！

Communication 子どもたちにつながる力を！

Chance 子どもたちにたくさんの機会を！

自分らしい人生をイキイキと生きていくためには

自信〔自分を信じる力〕と、

肯定感〔自分はかけがえない存在だと感じること〕が
必要不可欠だと言われています。

こうした力を養うためには、

挑戦〔失敗してもやりなおしのできるチャレンジ〕と
つながる力〔困ったときに人に頼れる力〕が必要です。



まなびタスは、生きていく力を養うために
子どもたちにたくさんの機会を与える場所です。

子どもたちが希望に出会える場所です。



事業領域：保護者支援事業



すべての若者が社会的所属を獲得し、 「働く」と「働き続ける」を実現できる社会



若者と社会をつなぐ